

ふじのくに3776友好訪中事業 静岡県健康福祉訪問団 訪中記

(財)静岡県予防医学協会総合健診センター
事務長代理兼健康増進課長 水谷直義



上海万博日本産業館にて

9月8日(水)・台風9号の影響か、時折風雨が強まる中、富士山静岡空港に「ふじのくに3776友好訪中事業 静岡県健康福祉訪問団」として参加する40名が集まった。この訪問団は、静岡県健康福祉部長の石川俊一氏を団長として、県内の各分野の関係団体のメンバーで構成されている。中国浙江省との友好事業として、富士山の高さ3776メートルと同じ人数の訪中を実現しようと始まったこの事業も既に2800人を突破していた。私は、2881人目の参加者として、記念のカードをいただいた。静岡空港での結団式の後、予定時間より20分程遅れて中国東方航空機に搭乗し、2時間半ほどで上海に着いた。

上海到着後は、2台のバスに分乗し、陸路で杭州市を目指した。時差は日本と1時間違いで、現地時間のほうが日本より1時間早くなる。ここからは、福祉と医療・衛生の2グループに分かれての行動となり、外山常務と私は、医療・福祉グループ15名に所属することになった。杭州市までは、高速道路を利用して約3時間半の道のりとなる。中国の観光バスは、とにかく揺れが激しい。高速道路なのに上下左右に激しく揺れる。おそろしく日本のバスとはサスペンションが違うのだろう。乗り酔いがひどい人であれば耐えられない揺れだ。しかも、運転もかなり荒い。とても観光バスとは思えない運転で、途中何度かははらはらした。西湖の畔にある杭州料理の老舗「樓外樓」へ到着し、遅い夕食となった。



杭州市六和塔

9月9日(木)・外山常務と私が所属する医療・衛生グループは、杭州市内にある浙江省衛生庁を表敬訪問した。先方より歓迎のあいさつがあり、浙江省衛生庁の組織や活動内容などの説明を受けた。石川部長からは、今回の訪問団について、すべての県民が安心して生活できる環境を目指して、医療・生活衛生面で活動しているメンバーである旨の紹介があった。浙江省は、中国全体のGDPで、2009年度のGDPは、中国全体の8.9%(2283.2億元)を占めており、そのうち59.4億元が衛生・福祉等の費用に充てられている。衛生省の職員は、29万6千人おり、そのうち医師が10万8千人、看護師が8万8千人いる。看護師よりも医師の人数のほうが多く、医師不足が深刻な日本とは対照的である。主要健康指標である妊婦死亡率や乳幼児死亡率も浙江省は、中国全体の中でもよい状態にある。中国でも日本と同様に高齢化の波が次第に押し寄せてきており、2015年には、60歳以上の人口が全体の15%を占める見込みであること、そのために高齢者の疾病が増加してきていることなどの説明があった。

また、主要な死亡原因については、都市・農村部ともに「がん」であり、その対策に力を注いでいる。静岡県立がんセンターにおける日本でのがん治療と緩和ケアへの取り組みについて、足立勇氏(県立がんセンター緩和医療科 参与)から流暢な中国語での説明があり、衛生庁の方々も興味深く聴き入っていた。浙江省にも静岡県と同じようにがん治療専門病院がある。900床のベッドを有し、浙江省の50%以上のがん患者を受け入れている。その他、抗がん協会という組織が活動しており、がん知識の普及やがん患者の交流会や旅行の企画、がん患者のためのリハビリセンターの設置などが行われている。衛生省の職員は、29万6千人おり、そのうち医師が10万8千人、看護師が8万8千人いる。看護師よりも医師の人数のほうが多く、医師不足が深刻な日本とは対照的である。主要健康指標である妊婦死亡率や乳幼児死亡率も浙江省は、中国全体の中でもよい状態にある。中国でも日本と同様に高齢化の波が次第に押し寄せてきており、2015年には、60歳以上の人口が全体の15%を占める見込みであること、そのために高齢者の疾病が増加してきていることなどの説明があった。

午後、浙江民政康民中心を訪ねた。この施設は、主として杭州市内の孤児収容施設から障害のある子供を一時的に預かり、医療教育などを一体として行っている。主として脳性マヒや聴覚障害、尿道・肛門等の障害、口蓋裂などの障害のある孤児を受け入れている。また、障害孤児だけでなく、両親がいない子供の受け入れも行っており、特に口蓋裂の治療に関しては手術数も多く、実績があるため多数の子供が治療を受けている。記念品の交換では、施設に入っている子供たちが書いた絵を丸め、杭州特産のシルクハンカチで結んだプレゼントをいただき、とても心が和んだ。その後、杭州市内にある静岡県・浙江省友好会館(花家山荘)を訪ね、館内に設置された富士山をデザインしたパズル絵のピースをばめ、記念撮影を行い、よい思い出となった。

9月10日(金)・杭州市を後に再びバスで陸路を3時間、上海へと向かった。なぜか皆シートベルトをしていないのが笑えた。上海市内に入ると交通渋滞が激しくなり、バスはなかなか進まない。高速道路からさびえ、超高速層の経済発展を強く印象づける街並みが続く。人口は、2000万人を超えるというのだから驚きである。バスは程なく「海陽航」という海鮮料理のレストランに到着した。そこでは川勝知事との昼食会が予定されていた。川勝知事は、2010年中国国際友好都市大会の交流活動が友好都市のモデルとして入選した。浙江省と静岡県との交流活動が友好都市のモデルとして入選した。その表彰式で上海を訪れた。忙しい公務の合間に縫って、訪問団との昼食会に出席していただき、参加者一同大変な感激であった。知事との名刺交換もでき、思い出深い昼食会となった。

午後、上海市内の古典庭園である豫園(よえん)を散策し、夕方からは、上海万博の日本産業館を訪問した。通常でも5〜6時間待ちは当たり前という万博で、専用のお入り口から優先入場できであった。結びとして、今回の健康福祉訪問団に参加させていただき、自分自身も日中友好の一員になったことはとてもうれしいことであり、すべての関係各位に感謝したい。また、石川県内での医療・衛生・福祉の各分野で活躍されている方々と知り合えることができたことは、何よりの宝だと感じている。今後もより一層の仕事にまい進し、すべての県民が安心して生活できる環境づくりのため、予防医学の分野から貢献したいと考えている。

9月11日(土)・最終日、上海市内にある「魯迅公園」で太極拳などを楽しむ人々を見学した後、上海浦東空港へ向かい、中部国際空港着で帰国の途に着いた。今回の訪中を振り返ってみると、バスでの移動時間も長く結構ハードなスケジュールであったが、中国の人々のパワーを感じるあつという間の4日間であった。富士山静岡空港ができて、2時間半程度で上海に来ることができるようになったのは、やはり便利である。中部国際空港からの帰りのバスの中では、ついさっきまで上海にいたのが、何だか嘘のように感じてしまうほどであった。

中部、北陸地区の7県から、主に職域の健康診断を実施する健康機関の経営、渉外担当者が集い、平成22年度全国労働衛生団体連合会中部地方協議会 第一回定例会議(財)静岡県予防医学協会が幹事)が9月10日(金)、晴天に恵まれた静岡市で開催、静岡市ホテル中島屋に関係者ら約70名を迎えて行われた。

中心議題は従来の職業病予防対策から、最近では過重労働、メンタルヘルス対策が大きな課題となった。また、生活習慣病予防対策、特定健診、特定保健指導の方向性も大きな関心を集めていた。各会員機関も、これらの社会の変化を踏まえ、受診者のニーズに的確にこたえ得る健診機関であり続けるために、活発な意見交換がなされた。

全体討議のあと(社)全衛連 加藤丈夫会長より「成熟化社会における事業戦略」と題して社会構造の転換の要因からそれに対応した企業の事業戦略、ビジネスチャンスなど、組織運営におけるさまざまな、「ヒント」が多く盛りこまれた講演で参加者一同非常に役立つ、興味深いものでありました。健康増進課 鈴木

好会館(花家山荘)を訪ね、館内に設置された富士山をデザインしたパズル絵のピースをばめ、記念撮影を行い、よい思い出となった。

9月10日(金)・杭州市を後に再びバスで陸路を3時間、上海へと向かった。なぜか皆シートベルトをしていないのが笑えた。上海市内に入ると交通渋滞が激しくなり、バスはなかなか進まない。高速道路からさびえ、超高速層の経済発展を強く印象づける街並みが続く。人口は、2000万人を超えるというのだから驚きである。バスは程なく「海陽航」という海鮮料理のレストランに到着した。そこでは川勝知事との昼食会が予定されていた。川勝知事は、2010年中国国際友好都市大会の交流活動が友好都市のモデルとして入選した。浙江省と静岡県との交流活動が友好都市のモデルとして入選した。その表彰式で上海を訪れた。忙しい公務の合間に縫って、訪問団との昼食会に出席していただき、参加者一同大変な感激であった。知事との名刺交換もでき、思い出深い昼食会となった。

午後、上海市内の古典庭園である豫園(よえん)を散策し、夕方からは、上海万博の日本産業館を訪問した。通常でも5〜6時間待ちは当たり前という万博で、専用のお入り口から優先入場できであった。結びとして、今回の健康福祉訪問団に参加させていただき、自分自身も日中友好の一員になったことはとてもうれしいことであり、すべての関係各位に感謝したい。また、石川県内での医療・衛生・福祉の各分野で活躍されている方々と知り合えることができたことは、何よりの宝だと感じている。今後もより一層の仕事にまい進し、すべての県民が安心して生活できる環境づくりのため、予防医学の分野から貢献したいと考えている。

9月11日(土)・最終日、上海市内にある「魯迅公園」で太極拳などを楽しむ人々を見学した後、上海浦東空港へ向かい、中部国際空港着で帰国の途に着いた。今回の訪中を振り返ってみると、バスでの移動時間も長く結構ハードなスケジュールであったが、中国の人々のパワーを感じるあつという間の4日間であった。富士山静岡空港ができて、2時間半程度で上海に来ることができるようになったのは、やはり便利である。中部国際空港からの帰りのバスの中では、ついさっきまで上海にいたのが、何だか嘘のように感じてしまうほどであった。

中部、北陸地区の7県から、主に職域の健康診断を実施する健康機関の経営、渉外担当者が集い、平成22年度全国労働衛生団体連合会中部地方協議会 第一回定例会議(財)静岡県予防医学協会が幹事)が9月10日(金)、晴天に恵まれた静岡市で開催、静岡市ホテル中島屋に関係者ら約70名を迎えて行われた。

中心議題は従来の職業病予防対策から、最近では過重労働、メンタルヘルス対策が大きな課題となった。また、生活習慣病予防対策、特定健診、特定保健指導の方向性も大きな関心を集めていた。各会員機関も、これらの社会の変化を踏まえ、受診者のニーズに的確にこたえ得る健診機関であり続けるために、活発な意見交換がなされた。

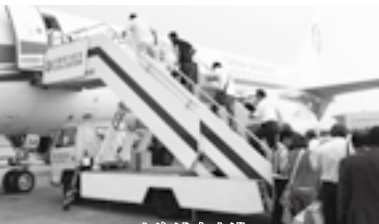
全体討議のあと(社)全衛連 加藤丈夫会長より「成熟化社会における事業戦略」と題して社会構造の転換の要因からそれに対応した企業の事業戦略、ビジネスチャンスなど、組織運営におけるさまざまな、「ヒント」が多く盛りこまれた講演で参加者一同非常に役立つ、興味深いものでありました。健康増進課 鈴木



魯迅公園



上海古典庭園



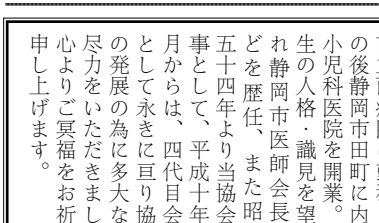
上海浦東空港



全衛連 加藤丈夫会長

編集後記

サザンオールスターズの桑田佳祐さん(54)が8月に初期の食道がんを手術し、20日余りで無事退院し、その後も良好と聞く。定期健診を受けた際、食道あたりになかなか異常が見られなかったが、「経過観察」となっていたらしい。再度検査を行ったところ、内視鏡検査で腫瘍が見つかった。▼桑田さんの存在は、本当に凄いなと思う。何が凄いかって。デビューから32年経っても色褪せる事がない。自分の若き頃、聴いていたサザンを自分の子供達も一緒に聴くのである。どの曲を聴いてもつくづく天才だと思う。今後、日本でサザンを越えるアーティストは、現れないと



(T・I)

当協会会長 名波登雄氏(逝去)

当協会会長の名波登雄氏は、去る平成二十二年九月十八日逝去されました。享年八十五歳でした。先生は、昭和二十六年京都大学医学部医学科卒業、昭和二十八年から三十五年まで静岡市立西病院に勤務、その後静岡市田町に内科小児科医院を開業。先生の人格・識見を望まね静岡市医師会長などを歴任し、また昭和五十四年より当協会理事として、平成十年六月からは、四代目会長として永きに亘り協会の発展のために多大なご尽力をいただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。